

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について(牛久市)

<結果の概要>

◇小学校国語・中学校国語

学習指導要領の6つの内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれから出題があり、小・中学校いずれも全国や県と比べて全体の平均正答率は高くなっています。小学校の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「読むこと」の平均正答率は、全国平均よりわずかに低くなっています。

◇小学校算数・中学校数学

4つの領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」(中学校では「数と式」「図形」「関数」「データの活用」)から出題があり、小・中学校いずれも平均正答率は県と比べ高くなっています。小学校の「データの活用」のみ、平均正答率は全国平均よりわずかに低くなっています。

<小学校 国語>

内容	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
言葉の特徴や使い方	◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについては、37.4%の正答率で国や県の平均正答率を下回っています。漢字のもつ意味を考えて、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けることが重要です。
情報の扱い方	◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことについては、平均正答率が88.8%とおおむね満足できる状況です。
我が国の言語文化	◇日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことについては、平均正答率が77.5%とおおむね満足できる状況です。
話すこと・聞くこと	◆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについては、55.6%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などに注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切です。
書くこと	◇目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることについては、平均正答率が81.5%とおおむね満足できる状況です。 ◆目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、61.8%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えの関係を明確にできるようにすることが必要です。
読むこと	◆人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることについては、69.2%の正答率で国や県の平均正答率を下回っています。心に残ったところとその理由を交流したり、友達が着目したところと自分が着目したところを比べたりすることが大切です。

<中学校 国語>

内容	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
言葉の特徴や使い方	◆表現の技法の理解については、54.2%の正答率で国や県の平均正答率を下回っています。表現が工夫されている文章や詩歌などを取り上げ、表現の技法に着目し、その名称などを確かめた上で、その効果について考えたり自分の表現に生かしたりすることが大切です。
情報の扱い方	◇具体と抽象など情報と情報との関係との理解については、平均正答率が78.6%とおおむね満足できる状況です。 ◆意見と根拠など情報と情報との関係との理解については、正答率が46.4%で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることが大切です。
我が国の言語文化	◇行書の特徴の理解については、平均正答率が82.9%とおおむね満足できる状況です。
話すこと・聞くこと	◇資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことについては、平均正答率が72.2%とおおむね満足できる状況です。 ◆話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることについては、59.5%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。話合いの目的や話題を意識し、話合いがどのような段階にあるのかを捉えながら話したり聞いたりすることが大切です。
書くこと	◇目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることについては、平均正答率が84.6%とおおむね満足できる状況です。 ◆表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することについては、52.5%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。自分が読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているか確かめることが大切です。
読むこと	◆目的に応じて必要な情報に着目して要約することについては、48.6%の正答率で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。要約する際には、目的を明確にし、その上で要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約することが必要です。

<小学校 算数>

領域	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
数と計算	◇数量の関係を、□を用いた式に表すことについては、平均正答率が88.6%とおおむね満足できる状況です。 ◆計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述することについては、正答率61.2%で国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。計算に関して成り立つ性質を活用して、

	計算を工夫する活動が必要です。
図形	<p>◇直方体の見取図について理解し、かくことについては、平均正答率が 85.7%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係をつえ、立方体の体積の求め方を式に表すことについては平均正答率 40.0%と、国や県の平均正答率を上回っているものの、さらに努力を要する状況です。図形の体積や面積を求める際、情報を自ら選び出すためには、図形の意味や性質の理解を深め図形を構成する要素を見だし、活用できるようにすることが必要です。</p>
変化と関係	<p>◇速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することについては、平均正答率が 73.5%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率 31.7%とさらに努力を要する状況です。速さの意味について理解するとともに、場面に応じて速さの比べ方を考察することが必要です。</p>
データの活用	<p>◇円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることについては、平均正答率が 76.4%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、無答率が 15.4%と高くさらに努力を要する状況です。グラフから分かることをノートなどに記録し、根拠となるデータについて、グラフのどの数値を読んで判断したのかを説明していくことが必要です。</p>

<中学校 数学>

領域	成果が見られた内容(◇)と課題が見られた内容(◆)
数と計算	<p>◇問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算については、平均正答率が 91.8%と十分満足できる状況です。</p> <p>◆連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が 40.2%とさらに努力を要する状況です。文字を用いた式に具体的な整数を代入して、連続する2つの偶数を表さない場合があることなどを確認していくことが必要です。</p>
図形	<p>◇回転移動の理解については、平均正答率が 71.3%とおおむね満足できる状況です。</p> <p>◆筋道を立てて考え、三角形の合同を基にして証明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が 30.3%、無答率が 30.6%とさらに努力を要する状況です。証明の方針を明確にし、証明の見通しを立てていくことが大切です。</p>
変化と関係	<p>◇二つのグラフにおけるy軸との交点を事象に即して解釈することについては、平均正答率が 91.8%と十分満足できる状況です。</p> <p>◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについては、国や県</p>

	<p>の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が 24.2%、無答率が 17.5%と高く、さらに努力を要する状況です。一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現できるようにする必要があります。</p>
データの活用	<p>◇簡単な場合の確率を求めることについては、平均正答率が 73.8%と、おおむね満足できる状況です。</p> <p>◆箱ひげ図から複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについては、国や県の平均正答率を上回っているものの、平均正答率が 27.5%、無答率が 23.4%と高く、さらに努力を要する状況です。箱の位置と「四分位数」などの数学的用語を用いて根拠を説明する学習活動を十分に行っていく必要があります。</p>

#### <質問紙調査の結果から>

- ◇「これまでに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と感じている小学生(児童)・中学生(生徒)が多くいます。
- ◇「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と感じている小学生(児童)・中学生(生徒)が多くいます。
- ◆「これまでの受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週 3 回以上活用した」と感じている小学生(児童)は、全国・県平均に比べて少ない状況です。